

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	29,263	(千円)
	公 演 事 業	19,381 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,002 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	8,880 (千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ワールド・ミュージック・シリーズ	2018年7月8日、12月1日	出演：ナポリ・マンドリン・オーケストラ（7月8日）、アルタン（12月1日）	目標値	570
		グランシップ交流ホール		実績値	602
2	グランシップ 音楽の広場2018	2018年8月5日	出演：広上淳一（指揮）、グランシップ音楽の広場オーケストラ・合唱団、徳永二男（Vn）、伊藤晴（Sp）、笛田博昭（Tn）他	目標値	5,723
		グランシップ 大ホール・海		実績値	7,592
3	グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル2018	2018年8月19日	出演：Red Spicy Big Band、ジャズ・リハース・オーケストラ、飯田英憲とフレッシュメンジャズ・オーケストラ、静岡大学スタンダード・ハーモニー・ジャズ・オーケストラ他5団体	目標値	1,350
		グランシップ 大ホール・海		実績値	1,711
4	NHK交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅡ～古典派編～	2019年3月24日	出演：野平一郎（指揮）、NHK交響楽団メンバー 曲目：野平一郎／静岡トリロジーⅡ「終わりなき旅」他	目標値	800
		グランシップ 中ホール・大地		実績値	393
5	世界のこども劇場	2019年7月1日～8月4日	演目(出演)：マイ・ホ・ディ・ノウズ！（ニコラ・エリョット）、レッドくんのもくようび（グレイズ・カンパニー）他	目標値	2,120
		グランシップ 中ホール・大地 他		実績値	2,134
6	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能	2019年1月27日	出演：山階彌右衛門、観世流能楽師 演目：安宅、葵上 古式	目標値	760
		グランシップ 中ホール・大地		実績値	607
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	
				実績値	

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	静岡県公立ホール連携支援研修事業	2018年6月～2019年3月	コーディネーター：中村透 講師：小林真理、松本茂章、高橋透、深野裕士、花田和加子	目標値	120
		グランシップ会議室他		実績値	106
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	
				実績値	

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	中学生のためのオーケストラ	2019年1月30日、31日	出演：松村秀明（指揮）、神奈川フィルハーモニー管弦楽団（管弦楽） 曲目：トヴ・ホルガー／交響曲第9番ホ短調作品95「新世界より」他	目標値	3,760
		グランシップ中ホール・大地		実績値	2,498
2	伝統芸能普及プログラム	2018年7月～2019年1月	監修：山階彌右衛門 他	目標値	560
		県内小中学校他		実績値	453
3	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能 能楽入門公演	2018年9月8日	出演：静岡県能楽協会、山階彌右衛門、観世芳伸他	目標値	800
		グランシップ中ホール・大地		実績値	989
4	グランシップ子どもアート体験！学校プログラム	2018年7月～12月	講師：人形浄瑠璃文楽座、宝井琴星（講談）、玉川奈々福（浪曲）、野村喜和夫（連詩） 他	目標値	1,170
		県内小学校他		実績値	1,429
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	
				実績値	

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当財団が管理運営する静岡県コンベンションアーツセンターグランシップは静岡県の文化振興の拠点として、静岡県文化振興基本条例やふじのくに文化振興基本計画等に基づき、「上質で多彩をより身近に」、「県民との繋がり」と広域的な協働」の2点をミッションとして平成30年度の企画事業を実施した。

1つ目の「上質で多彩をより身近に」としては、「グランシップ静岡能」や「ワールド・ミュージック・シリーズ」等、県内では鑑賞機会が少ない芸術性の高い公演を開催することができた。

また、県内の文化施設と連携して開催した「世界のこども劇場」の出前公演や、「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」、「伝統芸能普及プログラム」を開催し、普段生の文化芸術に触れる機会が少ない方々、特に若い世代に本物の文化芸術に触れる機会を提供することができた。

2つ目の「県民との繋がり」と広域的な協働」としては、県内で活動するアマチュアオケ・合唱700人が参加する「グランシップ音楽の広場」を開催し、県民に文化芸術に参加する機会を提供した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

若い世代が芸術性の高い公演を鑑賞することができるよう、平成23年度よりこども・学生のチケット代を1,000円とする料金設定や、学校単位や部活動単位で鑑賞する場合のチケット代を800円とする「中高生鑑賞プラン」を実施している。助成対象事業において、1,662人がこども・学生料金で入場し、69人の学生が中高生鑑賞プランを利用した。

さらに、「中学生のためのオーケストラ」では、県内の中学生をグランシップに招待して一流のオーケストラによる公演を鑑賞する機会を提供しており、平成30年度は22校、2,331人の中学生が利用した。

また、県立の公立文化施設と連携し、施設間のネットワークの構築と施設職員のスキル向上を目的として、平成22年度からアートマネジメントセミナー、平成30年度からは静岡県公立ホール連携支援研修を開催している。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

(目標) 公演事業の作品演目の制作にあたっては、常に質の高い芸術性を追求し、もって芸術家・芸術団体と鑑賞する県民との間に創造的な時間を構築する。

(実績) 芸術監督やディレクターを中心に、公演内容や演出に関して高い質を追求して公演を制作した。作曲家である野平一郎氏に静岡にちなんだ作品を委嘱し、世界初演した「NHK交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅡ」を始めとして芸術性の高い公演を開催することができた。

(目標) 公演満足度 97%以上

(実績) 満足度100%を達成した「ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」を始め、その他の事業の満足度も高かったことにより、平均満足度が97.9%となった。

(目標) 支出に対して収入の占める割合(収入率 45.3%)

(実績) 経費を精査したことにより、支出額を削減することができたが、入場者が伸び悩んだ事業があり、収入額が目標に届かなかった結果、平均収入率は40.7%となり、目標を達成することはできなかった。

人材養成事業

(目標) 県内文化施設職員が、連携事業のあり方の研究やトライアル事業を実践形式で実施、もって各県内文化施設職員の制作能力の向上を図り、研修の成果を地域の文化振興に活かす。

(実績) 「静岡県公立ホール連携支援研修」を通して、県内の文化施設の職員が企画制作に関する知識、ノウハウを身につけることができた。

普及啓発事業

(目標) 子ども・学生の入場者数3,100人以上(公演を伴う事業)

(実績) 「中学生のためのオーケストラ」では、インフルエンザによる学級閉鎖で来場できない中学校があり、子ども・学生の入場者数は2,331人とどまった。

(目標) 教員、児童・生徒の満足度 95%以上(アウトリーチ事業)

(実績) 「伝統芸能普及プログラム」の満足度は98.6%、「学校プログラム」の満足度は96.8%であり、どちらの事業も目標を達成することができた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1 事業期間

「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」では、学校に募集を開始した時期が例年よりも半月ほど遅くなってしまい、例年3月中に学校が決定するところが平成30年度に入ってからになってしまった。なお、学校決定から本番までは特に問題なく進めることができた。この反省を踏まえ、平成31年度の募集は例年よりも早く行うようにし、2月中に学校を決定することができた。その他の事業については、余裕を持ったスケジュールを組み、スケジュール管理も適切に行ったことにより、当初の計画どおりに進めることができた。

2 事業費

事業を企画する段階で必要な費用かどうかを精査して積算した。その結果、全日程参加予定だったコーディネーターの体調不良に伴い、謝礼金や交通費が計画よりも少なくなったため、執行率が38.8%となった「静岡県公立ホール連携支援研修」を除いて概ね計画どおりに執行することができた。「音楽の広場」、「ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」「中学生のためのオーケストラ」、「能楽入門公演」の4事業で総事業費の執行率が90%を超えた他、80%代の事業も「ワールド・ミュージック・シリーズ」の2事業、「NHK交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅡ」等8事業あった。助成対象事業全体の執行率も89.5%となり、ほぼ当初の計画通りに執行することができた。さらに、事業費が当初予算額を上回った事業は1つもなかった。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

以下の事業において、静岡県の文化拠点としての機能を発揮できたと考えている。

1 「グランシップ音楽の広場」

(特徴)

- ・平成30年度で11回目の開催となる真夏の音楽祭。演奏者と観客合わせて3,000人が一体となって創り上げている。
- ・静岡県内外のアマチュア演奏者にプロ奏者のサポートを加え、約300人の「グランシップ音楽の広場オーケストラ」を結成している。
- ・コンベンション用の施設である当館の大ホール・海を会場とし、オーケストラが指揮者を360度囲むスタイルで配置している。このスタイルは他の劇場ではあまり見られない光景であり、さらに約300人の「グランシップ音楽の広場合唱団」も加わってコンサートを盛り上げている。
- ・チケットはほぼ毎年完売しており、入場者数は2,000人を超えている。
- ・県民参加型の音楽の祭典として、出演者の所属団体や職場、県や市の教育委員会、NHK静岡放送局をはじめとする多くの後援団体の協力を得て、静岡県内に留まらない広報周知を実施している。
- ・本公演は毎年違ったアイデアを盛り込み、来場者が毎回実施内容を期待する形で実施している。

(成果)

- ・平成30年度の公演も完売となった。参加者数についても、合唱が過去2番目、オーケストラは過去最多の人数となった。
- ・アンケートによる公演満足度も99%と非常に高かった。

2 「静岡県公立ホール連携支援研修」

(特徴)

- ・持続的な事業連携及び支援を求める静岡県内の公立文化施設の職員等を対象とした研修。
- ・公立文化施設職員としてのスキル向上と各施設間の交流を図ることを目的とする。平成22年度から「アートマネジメントセミナー」を、平成30年度からは「静岡県公立ホール連携支援研修」として実施している。
- ・実施体制については、①少人数でじっくり取り組む、②若手の職員（20代～30代）を中心として事業企画に携わる職員を対象とする、③研修で学んだことを各文化施設の主催事業の取り組みに生かす、という点を重視してプログラムを組み立てている。
- ・業務の都合により全日程参加できない場合は、聴講生として単発で参加することも可能としている。
- ・研修の質を高めるため、研修内容に精通した方を講師に招いている。

(成果)

- ・平成30年度は、研修生として公立文化施設の職員10人、聴講生として地方公共団体で文化行政を担当する職員等7人が参加。全9回の研修で延べ106人が参加した。
- ・研修を通じて、現在公立文化施設に求められている役割や課題を共有し、さらに研修生がトライアル公演を企画・実施することにより、県内の公立文化施設職員の企画制作能力が向上し、各施設の主催事業の企画制作に活かすことに寄与することができた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

当館は伝統芸能の普及活動に力を入れており、年間を通して伝統芸能に触れてもらえるよう様々な事業を実施している。「歌舞伎」「能楽」「文楽」の3公演を「グランシップ伝統芸能シリーズ」として年間を通して開催し、演目や出演者等を通じてそれぞれの舞台芸術の特徴や内容を楽しめるように工夫して実施している。また、文楽の出前公演やアウトリーチ活動で伝統芸能のプログラムを実施し、当館に来ることが困難な方々にも伝統芸能の魅力に触れてもらえるよう努めている。

伝統芸能の中でも能楽は、能楽の創始者である世阿弥が最後に舞った舞台が静岡市にある静岡浅間神社であったことや、静岡とゆかりのある演目がある等、静岡と能楽の結びつきは深く、県民の能楽への関心が高い。そこで開館当初から能楽の公演を実施している。解説や体験を交えた「能楽入門公演」や、学校等に向いてのアウトリーチ活動である「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」や「伝統芸能普及プログラム」等を実施して、1月に本公演となる「グランシップ静岡能」を実施している。このように、伝統芸能に関心のない方でも段階を踏んで興味・関心を抱いてもらえるように工夫している。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

ふじのくに文化振興基本計画を受け、様々な事業を通じて県民が文化芸術活動に触れる機会を提供している。アウトリーチ活動に力を入れており、「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」では第一線で活躍している芸術家を講師として音楽、伝統芸能等の様々なプログラムを行っている。実施については、事前に担当職員が学校等を下見して教職員と打合せを行い、よりオリジナル性が高いプログラムを構成している。また、プログラム終了後に教職員と講師、財団職員による交流会を実施している。交流会で出た意見を次のプログラムに反映させ、より良いプログラムができるように努めている。

また、「伝統芸能普及プログラム」においても、県内各地域と連携を図りながら伝統芸能の普及に取り組んでいる。伝統芸能の中でも特に当館がノウハウを持つ「能楽」を中心に据え、子どもたちに日本の伝統芸能の持つ素晴らしさを伝え、また、単独での事業成功が難しいとされる伝統芸能事業の地域での普及を目的として実施している。

人材育成の分野では、県内唯一の複合文化施設を管理・運営している当財団において、「県内の公立文化施設の機能向上」や、「市町の公立文化施設のネットワークづくり」を財団が果たす使命の一つと考えており、平成22年度から「アートマネジメント研修」、平成30年度から「市静岡県公立ホール連携支援研修」を実施し、県内市町の公立文化施設職員のスキル向上とネットワークの構築を図っている。

これらの活動の結果、平成30年度には掛川市の文化施設が文楽公演を実施し、公立文化施設の自立と文化芸術活動の機会の拡大にもつながっている。